

# 人形の語り種

経済学部経済学科1年 伊藤洋佑

ココハドコ？

瞳開き見ゆる世事に初し事と双眸、華開きゆく  
耳開き聞きし俗音に一音一音、心から喰らえて  
ゆく

啄みたい青く澄み割りし空に伸ばす指は白妙の  
無垢のままに

(人形は語りました  
ワタシは、わたしは、私は  
見たい、聞きたい、触れたい  
ねえ、見させて、聞かせて、触れさせて  
そして教えて、何かを感じるといふ事を)

冷たいのか暖かいのか

透き通りし体は戸惑いの声を小さく呟く  
がらんどくと、がらんどくと  
何処かの心が  
がらんどくと、がらんどくと  
謳い去りて

夜空にはびこる明星の花と  
あの満月が美味しそうと  
繊細な喉がごくりと謡う

血潮映らぬ白妙の体でも  
温色を伝い歩ければ  
温もりの意味に辿り着けるのでしょうか？  
と

見上げた白夜の空に手を伸ばした

(人形は語りました

意味を探すのは容易く

その答えを探すのに難ありて

故に探して、探して

さ迷いては

探して、探して

また

さ迷い泣き、謳いゆく

だけど

聞きたい、訊きたい、聴きたい

見たい、観たい、視たい

触れたい、触れたい、触れたい

不完全の故にある

我がままな心

ワタシの、わたしの、私の中にも

ソレは生まれたのでしょうか？)

一縷の心は幼いというには小さ過ぎて  
まばらに揺れ映え動きゆく

影遊びが迷子になった

初めて知ったよ

これが「悲しい」

これが「嬉しい」

これが「恋しい」

これが「憎しい」

これが「慈しい」

これが「情緒」

(人形は語りました)

此方に、彼方に、此方に、彼方に  
答えがあるのですか？

何処に、何処に、何処に、何処に

謡い歌えば、謳い唄えば

この先を導いてくれるのでしょうか？)

小夜の髪折りし

小さな手のひらは緋色を求め

さ迷い

残りし小さな足跡が朧気にたゆたう

初めて知ったよ

これが「動物」

これが「昆虫」

これが「樹木」

これが「海原」

これが「大空」

これが「人」

朽ち果てぬ小さな軀

何色にも染まるかも分らぬままに

ただ無垢に伸ばした手の平から

生の香りが漂った

初めて知ったよ

これが「動く事」

これが「止まる事」

これが「走る事」

これが「生きる事」

これが「死せる事」

これが「命」

初めて知ったよ

これが「彼氏」

これが「彼女」

これが「彼等」

これが「貴方」

これが

これが

これが「私」